



下関の建築文化を考える講演会&シンポジウム
未来に残すべき建築

～モダニズム建築継承のために～

2019

11/30 **土** 13:30
▶16:00

**入場
無料**

会場
海峡メッセ下関
10階 国際会議場
山口県下関市豊前田3丁目3番1号
TEL:083-231-5600 FAX:083-231-5598



基調講演「愛される建築」

竹山 聖

建築家・京都大学建築学科教授

司会進行 **原田 正彦** 日本建築学会中国支部山口支所長

パネラー **平野 祐一** 建築家・香川県在住

今村 剛浩 建築家・下関市在住 **岡松 道雄** 山口大学感性デザイン工学科教授

主催／(一社)日本建築学会 中国支部 協力／(一社)山口県建築士会・NPO法人まちのよそおいネットワーク&山口近代建築研究会

後援／(公社)日本建築家協会 中国支部・(一社)山口県建築士会・(一社)山口県建築士事務所協会

お問い合わせ
お申込み

HP申込フォーム
<http://j.mp/35MU84q>

QRコード
申込フォーム



メール 氏名と市町村名を記載してください
shimoho2019@gmail.com



山口県下関市は戦後の昭和30年～40年代に建設された下関市庁舎(設計:前川事務所田中誠/1955年建設)や火の山展望台(設計:菊竹清則1973年建設)が解体され、今は下関市立体育館(設計:坪井善勝/1963年建設)が解体されようとしている。その下関市立体育館を設計した。

東京大学名誉教授であった建築家坪井善勝氏は国立代々木競技場や東京カテドラル聖マリア大聖堂などの傑作を生みだした建築家丹下健三氏と協働した構造家である。

昭和42～43年には日本建築学会会長も務めている。

高度経済成長が終焉し、ストック型の社会へ変換した現代となった今。

山口県の戦後の復興、発展と共に歩んできたこれらのモダニズム建築の度重なる解体に強い危機感を抱きます。

このため、戦後モダニズム建築の保存活用に関する基調講演及びシンポジウムを行い、モダニズム建築の魅力や文化的歴史価値を。また、未来に残すべきの建築の保存の可能性を市民と共に考えたく企画しました。

〔基調講演者〕

せい 竹山 聖

建築家・京都大学建築学科教授

山口県内に周東町パストラルホールの作品がある

坪井善勝氏の弟子の構造設計者 今川憲英氏と協働

略歴

1954年 大阪生まれ

1977年 京都大学卒業 増田友也研究室

1979年 東京大学大学院修士課程修了 原広司研究室

1979年 設計組織アモルフ創設

1983年 株式会社設計組織アモルフに改組、代表取締役就任

1984年 東京大学大学院博士課程退学

1992年 京都大学助教授

2015年 京都大学教授

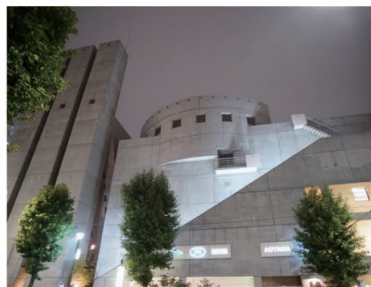
2016年 香港大学客員教授。

パリ・ラヴィレット建築大学、バレンシア工科大学などでも教鞭をとる。

東京大学博士(工学)、日本建築設計学会会長

主な作品に、箱根強羅花壇、周東パストラルホール、大阪府立北野高校、ペにや無何有、城崎温泉西村屋招月庭、浅草威光院、新宿瑠璃光院白蓮華堂、雷門旅館、など。

主な著作に、『独身者の住まい』(廣済堂出版2002)、『ぼんやり空でも眺めてみようか』(彰国社2008)など。



1991年 TERRAZZA

(撮影:伊藤嘉朗)



1994年 周東町パストラルホール (撮影:古館克明)

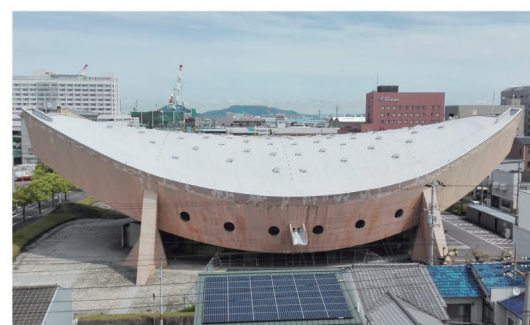


2003年 北野高校同窓会館

(撮影:白鳥美雄)



2014年 新宿瑠璃光院白蓮華堂 (撮影:伊藤嘉朗)



丹下健三氏作品 香川県立体育館

〔パネラー〕

ゆう いち 平野 祐一

建築家・香川県在住・建築家 丹下健三氏作品の香川県立体育館保存運動を進めている

設計事務所 平野地域計画 主宰 香川大学工学部非常勤講師

(一社)船の体育館再生の会 理事

略歴

1953年 大阪生まれ

1979年 京都大学工学部大学院建築学科修士課程修了 増田友也研究室 専攻 建築論・建築史

1979年 働設計事務所洋洋社 東京事務所に入社

1987年 (有)山本忠司建築総合研究室に入社

1993年 設計事務所 平野地域計画を設立 現在に至る。